

討論と質疑

中嶋 一九八九年は、現代史の上で画期的な転換の年である。それは二つのことに象徴される。一つは、自由と人権をもち

たらしめたフランス革命の二百年という年に、中国の天安門事件が起きた。もう一つは、ハンガリーなどのように社会主義が内部的崩壊に直面していることだ。

フランス革命の自由、人権などはすばらしいがその背景には血の犠牲があった。天安門事件などをみると、血なまぐさい革命の負の部分を受け継がれてき

第1部

ひろがる自由 人権意識

たのではないかと思ふ。人類は、いま、社会主義国家を体験したことによって、革命



精神が二世紀を経てこの間、営々と受け継がれ世界に広がり歴史に大きく貢献しているという点だ。

フランスでは政府内に「人権及び女性の権利」を守るための専門の担当大臣がいる。つまり人権意識をめぐる不断の努力

が、国連の人権委員会に取り上げられ国際的反映も大きい。国内の世論が盛り上がるに

た。アメリカも厳しい自然条件の中で自由な社会を築いた。今日のアフリカをみると、ボツワナでは民主主義が生まれてい

る。生活水準の高い平和的な社会だ。民主主義ではない国の多くの指導者は、もう少し豊かになら

「天安門」は負の遺産

中嶋氏

異質排除する日本

渡辺氏

国家は非常にコストがかかる、自由も人権もほとんど実現しないということを教訓として学んだ。東西関係は、西側の勝利で

は行われている。一方、ヨーロッパ各国は、それぞれに人権宣言の理念の確立をいまだに怠る

は、そのせいだ。「らしき」の社会は、個人の側でいうと、自由の行使も権利

の享受も暗黙のうちに自己規制されたものに甘んじていることにな

る。フランスの新聞が、「表現の自由はカッパにへくられてしまったようだ」と表現した昨年

秋の日本の状態がそれを象徴している。日本の富と繁栄の陰にある自由と人権の問題を、私は

いまやフランス革命の光の部分に影の部分を感じたことにより、二十一世紀を導こうとしているのではないかと思

う。そして、二十一世紀は革命ではなく、リフォームが大きくていけるのではないか。

フォンテーヌ 革命の負の部分に関する中嶋さんの指摘は確

は不平等、貧困などを背景にしてきた。下火になり、また翌年繰り返される。

しかし中国の事情はか世界に基盤から校則を擁護する論にか

き消され、生活水準は低かった。スイスだが、生活水準は低かった。経済的にはソ連よりはるかに



る抵抗権、主権在民、参政 立脚した社会で、人間の要 統理論から離れ始めたこと してであることを信じてい

と、つまりカトリック教会の普遍的な世界から国民国家をもち取るものであったとすれば、現在は